

古事類苑

人部十七

禮 謙讓 併入

禮ハ、キヤト云ヒ、又ウヤマフトモ云フ、即チ恭敬ノ義ナリ、此篇ニハ其行迹ニ顯ハレタル最モ著キモノ、ミヲ收載ス、而シテ起居動作ヨリ、冠婚葬祭等ニ至ル、謂ユル禮式ニ關スル事ハ、別ニ其部アレバ、多ク省略ニ從ヘリ、

謙讓ハ、ユヅルト云ヒ、又ヘリクダルト云フ、即チ人ヲ推敬シテ、自ラ退讓スルヲ謂フナリ、

名稱

〔伊呂波字類抄〕禮人禮レ亦イ作レ禮

〔干祿字書上聲〕禮レ、立正上、多

〔段注說文解字上〕禮レ、履也、見禮記祭義周易字卦傳履足所依也引伸之凡所依皆曰履此假借之法履履也禮履也履同而義不同所レ目事神致福也

从示从豊禮有五經莫重於祭故禮豊亦聲靈啓切

〔釋名四〕釋言禮體也得事體也、

〔日本書紀二十〕元年六月有司以禮收葬、

〔日本書紀十九〕四年十月山田皇后怖謝曰、今皇子明者敬老慈少禮下賢者、

〔日本書紀七〕景行五十一年八月初日本武尊中所獻神宮蝦夷等晝夜喧譁出入無禮、

〔倭訓栞前編四〕うや 日本紀に禮をよめり、るやの轉せるなり、無禮をうやなしとよめり、

〔伊呂波字類抄〕爲恭キヤ、シ敬キヤ、ママフ